



ポニョのあたらしいおうち



にぎやかな夏祭りの夜。
赤や黒、色とりどりの金
魚たちの中で、全身まっ
くろな出目金のポニョ
は、すこしだけ心細く思
っていました。「だれ
か、僕を見つけてくれる
かな？」



金魚すくいの屋台に、ゆいちゃんという女の子がやってきました。お父さんと一緒に、どの子にしようか一生懸命のぞき込んでいます。「あ！あの子がいい！」ゆいちゃんは、隅っこにいたポニョを見つけました。



ゆいちゃんは、ポイをそ
っと水の中に入れました。
白い網で、やさしく、やさしく。ポニョの
下にポイを滑り込ませ、
ゆっくりと持ち上げま
す。やった！ポニョは、
ゆいちゃんの優しい手に
すくい上げられました。



おうちに帰る道。ポニョは、ゆいちゃんが持つ水の入った袋の中から、ぼんやりと流れていくお祭りの灯りを眺めていました。ゆいちゃんが「大丈夫だよ」と話しかけてくれる声が、ぽちゃん、ぽちゃんと水に響きます。



「ただいま！」おうちでは、お母さんがにこにこして迎えてくれました。
「見て！新しい家族だよ。名前はポニョ！」ゆいちゃんが言うと、お母さんは「まあ、かわいいわね。ようこそ、ポニョ」と優しく言いました。



お父さんが、ポニョのために素敵なおうちを用意してくれました。ピカピカに磨かれた、大きくて立派な直方体の水槽に、きれいな色の砂利を敷いて、小さな緑の水草と、かわいい橋の置物をそっとうけてくれます。「ここなら快適だろう」



ゆいちゃんが袋を傾けると、ポニョはつるん！と新しいおうちの中へ。広々とした大きな水槽は、なんて気持ちがいいんでしょう！ポニョは嬉しくて、水草の周りをくくる、すいすいと何度も泳ぎました。



その夜、家族みんなが水槽の前に集まりました。

「ポニョ、おやすみ」ゆいちゃんがガラスにそっと指で触れると、ポニョはしっぽをふりふりして、まるで「おやすみ」と答えているようでした。



次の日の朝。「ポニョ、おはよう！」ゆいちゃんが声をかけると、ポニョは水面に上がってきます。パラパラと落ちてくるごはんを、ぱくぱく。毎日ゆいちゃんに会えるのが、ポニョの一番の楽しみになりました。



ポニョはもう、ひとりぼ
っちではありません。ゆ
いちゃんと、お父さん
と、お母さん。温かい家
族に囲まれて、まっくろ
な出目金のポニョは、世
界で一番幸せな金魚にな
りました。